

戦略的ID管理はDX成功の鍵

Okta Japan 代表取締役社長
渡邊 崇



リモートワークの広がりでも仕事ができる環境が整いつつある中、企業にとって従業員のアイデンティティ（ID）管理は大きな経営課題だ。戦略的なID管理を行うことは社員のモチベーションアップや生産性向上につながる。さらに顧客向けサービスにおいてIDを起点に様々なサービスを展開することで、カスタマーエクスペリエンス（顧客体験）など新たな価値の創出が可能だ。世界1万5000社超の企業にID管理サービスを提供するOkta（オクタ）。その日本人Okta Japanの代表取締役社長は「中立性と可用性が当社サービスの強み」と語る。

ID管理が重要な経営課題に

デジタルトランスフォーメーション（DX）が叫ばれて久しいなか、多くの企業ではその実現に苦労しています。近年、DXで成功した企業の例としてGAFAMが挙げられます。4社のビジネスモデルはまったく異なりますが、共通するのはこれまでのようなサービスやシステムを中心とした顧客体験ではなく、利用者の視点で一人ひとりに最適な顧客体験を提供できている点です。彼らはIDに基づき新しい顧客体験を提供しているのです。

例えばGoogleの主要な収益源は広告です。サービス利用者のIDと、検索されたキーワードを利用したサービスをひも付けることで、利用者の興味のあるような広告をターゲットにできます。またアプリは一つの「アップルID」でコンピューターや携帯音楽プレイヤー、コンテンツのダウンロードなど、個々の興味に基づいた最も心地よい体験をシームレスに提供しています。こういった体験が効果的だということを裏付ける形で、最近のリポートでは消費者の63%が、自分の興味に関連がある商品をレコメンドしてくれるブランドから商品を買いたいと考えているという調査があります。



この10年間でリアルとサイバースペースの融合という大きな変革が起きていますが、世界的な成功企業はいずれもIDを根幹としたビジネスモデルを構築している点に注目すべきです。日本企業でも顧客情報の蓄積を進めていますが、個別最適化を進めるためのサービスごとにバラバラのIDを使っている企業が多いのが現状です。

例えばあるメーカーでは商品やブランドで別々のウェブサイトを管理していて、一つのウェブサイトで会員登録をしても、他のウェブサイトで再度別のIDで会員登録しなければならぬという事態が生じています。企業側も同じ個人と特定できず、情報の活用も限定的になってしまっています。

優秀な人材確保にも影響



労働人口の減少は大きな経営課題の一つですが、優秀な人材を確保する面から見てもID管理は極めて重要です。ある調査では米国の労働者の49%が「自分が仕事で使うテクノロジーにイライラが募った場合、その会社を辞めたい」と回答しています。つまり動きやすさや従業員体験の高い労働環境の実現は、今後の人材確保の点から無視できない要素となりつつあるといえます。では、なぜ従業員体験とID管理が関係するのか。DXやリモートワークをはじめとする昨今の動き方の急激な変化が挙げられます。新しい動き方の中では利用するアプリケーションが急増しており、当社のお客様は平均187のアプリを利用して業務を行っています。生産性の向上やDXをすすめるためにもこの流れは今後ますます加速することが予測されます。それに伴い、増大するアプリケーションが動きやすさや従業員体験を阻害し始めているという点も理解する必要があります。

高い中立性・可用性が肝



例えば従業員1万人の企業で100のアプリを利用する場合、IT部門は100万通りの権限設定を行う必要があります。こうなると管理者の負担は高まる一方、権限設定のミスは重大な問題を引き起こす可能性もあります。ビジネススピードが加速している現代社会では迅速な対応が求められる。膨大なアプリケーションを手

Oktaが提供する先進的なID管理



当社は全世界で1万5000社超の導入実績を誇るID管理の専門企業です。従業員向けと顧客向けのID管理サービスを提供しています。従業員向けのサービスではID管理に求められる豊富なセキュリティ機能に加えて、7300以上のアプリケーションにも対応しています。クラウドやZoom、ボックスなど海外のアプリケーションと事前統合が完了しているだけでなく、スマートHRやサイボウズ、クラウドといった日本国内のSaaS（サーズ）アプリケーションが提供する主要アプリケーションと事前統合もすでに完了しており、管理者は簡単に設定できます。

一方、顧客向けサービスは例えば数百万人の野球ファンを抱える米大リーグのデジタルサービスを支えるID管理サービスとして使われています。顧客向けサービスは今後より強化していくため、アプリ開発者向けID管理サービスを提供するAuth0を買収しました。

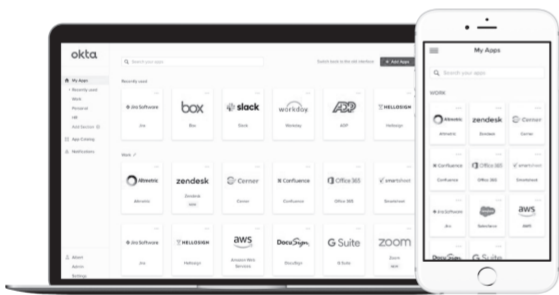
さらに可用性という点では、過去5年間の可用性実績は99.997%を実現しています。安定して事業の継続を実現できる可用性の高さは当社の大きな強みのひとつです。こうしたことを実現できるのは当社がID管理の専門企業だからです。R&D（研究開発）投資に集中し、製品のバージョンアップも週1回のペースでリリースしています。サイバーセキュリティインシデントが日々起こる現代社会において、OktaのR&Dのスピード感と規模感は大変な安心材料になります。

Oktaの提供するサービス

15,000を超える世界中の企業がOktaを使い安全にアイデンティティを管理しています

従業員向けサービス

会社の従業員、契約社員、取引先社員がどこからでも安全にアクセスできるように



顧客向けサービス

あなたの会社のお客様に対して、安全なアクセス環境を構築・提供



会社紹介



Oktaは、ビジョンとして「あらゆる人があらゆるテクノロジーを安全に使うことができる世界を実現する」を掲げ、すべての人のアイデンティティとアクセスを安全に管理するサービスを提供しています。2009年に米国で創業し、17年にNASDAQに上場。20年に日本法人を設立しました。現在、1万5000社超のお客様がOktaを活用しています。

Okta Japan株式会社

東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア45階

<https://www.okta.com/jp/>



Okta City Tour Tokyo

開催のお知らせ

2022年5月31日（火）に、ヒカリエホール（渋谷）においてイベント「Okta City Tour Tokyo」を開催します。業界動向、Oktaのビジネスや製品、お客様事例などを紹介します。

時代はデジタルへの移行を目指す「DX」から、アイデンティティを共通の基盤とした「アイデンティティファースト」へ。あらゆるビジネスにおいてアイデンティティを基盤にすることが重要です。本イベントでアイデンティティとビジネスの未来について考えてみませんか。

開催日：2022年5月31日（火）14:00 - 17:00（イベント終了後17:00から18:30まで懇親会を開催）

会場：ヒカリエホール（東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ9階）

参加：無料（会場参加とオンライン参加のどちらかをお選びください）

参加申し込み：下記登録フォームより申し込み▼

<https://www.okta.com/jp/city-tour/tokyo/#register>



申し込み締め切り：2022年5月27日（金）17:00